

## ストーマ面板カット器開発についての活動報告

Tailor-made shaped opening in stoma faceplate for individual patients  
(is created with the newly-developed instrument)

外来部門 赤羽 公子 亀谷 博美  
西6階病棟 矢野 友美

### 要旨

視覚障害の患者が、ストーマ装具の面板をはさみを使わずにカットできる器具の開発に取り組んだ。長野県工業技術総合センターに仲介をしてもらい、一般企業の開発担当者に依頼し、要望を取り入れた器具の試作をすすめた。市場性・普及性などの課題を抱えているものの、実際に試作品は完成し、患者が試用して改良意見がまとまり、完成品の作成待ちである。患者が自立するために、看護師自身があきらめず行動を起こしていくことが大切である。

### キーワード

ストーマケア自立・面板カット・器具

### はじめに

以前、視覚障害の患者がストーマケアの工夫によって自立ができることを経験した。しかし、最終的に楕円形のストーマのため、面板の穴をくりぬく作業は、介助者に委ねられており、患者自身のはさみを使わずにくりぬく新しい方法がないのかを、相談された。そこで、長野県ストーマリハビリテーション研究会でこの患者の事例を発表し、アドバイスを求めたり、ストーマ装具販売会社へ問い合わせをしたが具体的な器具や方法は見つからなかった。患者用にストーマ面板カットをする器具を作るために、県や一般企業と相談し、試作までこぎつけたのでその経過を報告する。

### 1、研究目的

視覚障害（全盲）の患者がストーマ面板をカットできる器具の開発に取り組む。

### 2、研究方法

1) 患者とともにストーマ面板カット器の構想をたてる。

患者からの要望：はさみ式でないもの・安価

看護師の要望：安全・安価・操作が分かりやすい

2) 依頼先を探す。（インターネット）

3) 器具の製作を依頼する。

### 3、研究の結果（経過）

#### 1) 要望する器具を文章化

どのような器具だったら切ることができると思うか患者へ質問した。「はさみは使ったことはあるが、経験回数が少なく、上手にはならないと思う。面板は厚いので大変そう。一度に切ってしまうような器具がほしいです」

机の上にある穴あけパンチのようなものはどうだろうかとイメージがわいた。

#### 2) 相談

はさみ・カッターなどキーワードにしてインターネットで検索したが、開発をしている企業を具体的に絞る事ができなかった。行政に窓口があるのではと、検索したところ、長野県工業技術総合センター（以下：センターとする）の窓口があることがわかった。まず、電話で相談をした。

センターの職員に来てもらい、実際に使っている面板・蓄尿袋の説明とふれてもらい、写真でストーマについて説明をした。また、ストーマが楕円形であり、既製孔の面板が使えないこと、視覚障害でありながらストーマに面板を貼付できるのは、同サイズの筒をくぐらせながら貼り付ける方法にしていること、楕円系にカットする必要性を伝えた。

センター内で検討してもらった結果、後日、3つの方法を提案された。

- A 代理店からストーマ装具販売会社（以下：販売会社とする）に企画を持ちかけて、センターと共同で開発する。センターは、開発企業を見つけて、販売会社とつなげる役割をする。
- B 医工連携として知的財産活用センターに入ってもらいながら、開発を進める。
- C センターが、私たち看護師に開発企業を探し、コーディネートしていく。

検討した結果、

Aは、販売会社の担当者に相談し、アメリカの本社に、企画の話を相談してもらおう。しかし、訪問看護が普及しているアメリカには、器具は必要ないとの返答であった。

Bは、話が大きくなり、困難かもしれないのでセンター側からは勧めない。

そのため、Cの方法で進めることとした。

#### 3) 企業の斡旋・仲介

試作をしてくれる企業が佐久地域で見つかったと連絡があった。センターの職員の方が、実際に企業に出向いて、面板・蓄尿袋やストーマについての説明・私たちからの要望について伝えていただいた。開発企業側からは、協力していただけるという返事をもらえた。低コストを目指すのが、試作には時間が必要であること、試作品には改善点を具体的に教えて欲しいと要望があった。

#### 4) 器具の試作

器具の試作品は、4ヶ月後であった。試作品を取り囲んで 開発担当の主任、営業担当、取締役とセンターの方たちと会議を開いた。試作品を使って面板をカットしたが、一部切れない部分があり、検討した結果、力を加えると反対側が浮いてしまうことがわかり改良することになる。後日、完成品が仕上がった。

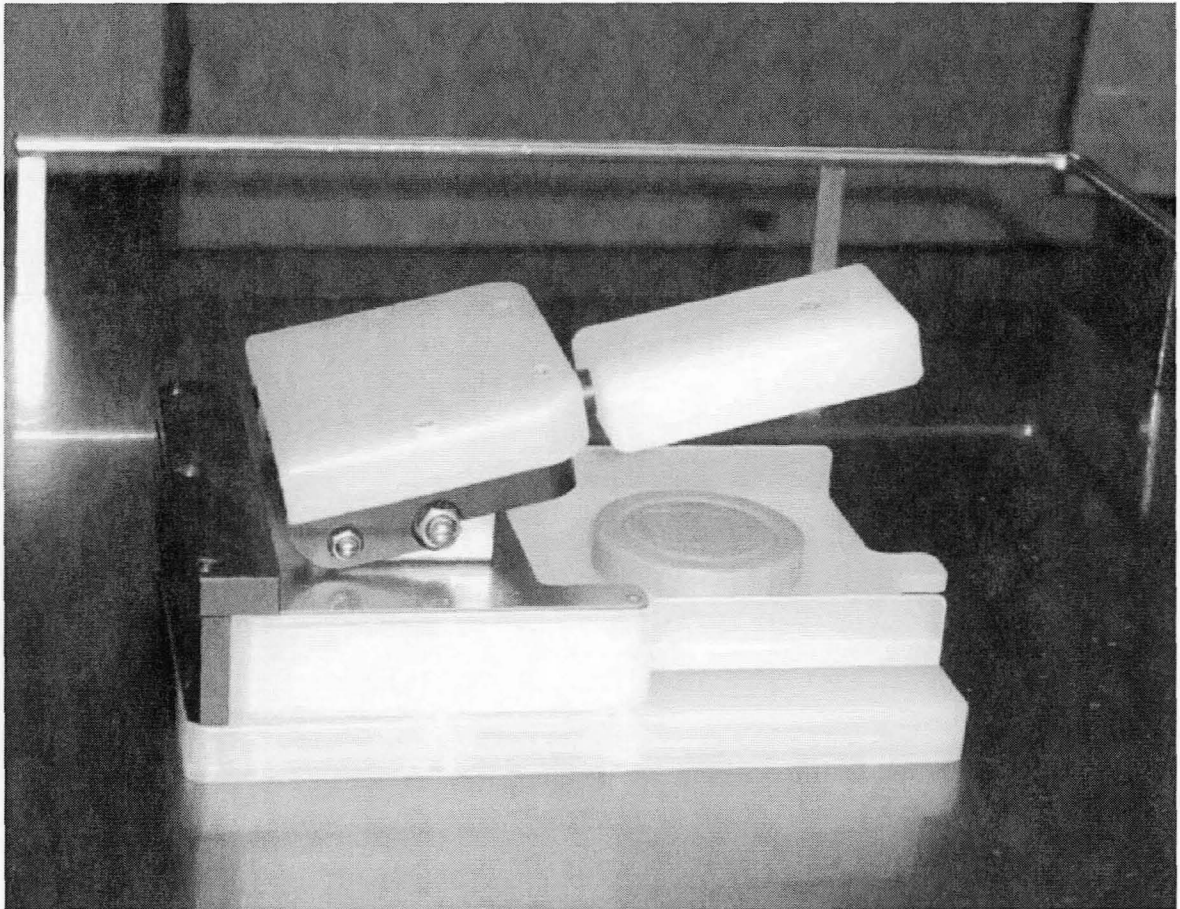


図 1

#### 5) 器具の試用

改良した器具を使って、患者さんに実際に面板をカットしてもらった。体重を器具にかけるように力を加えれば、うまく切れることが分かった。

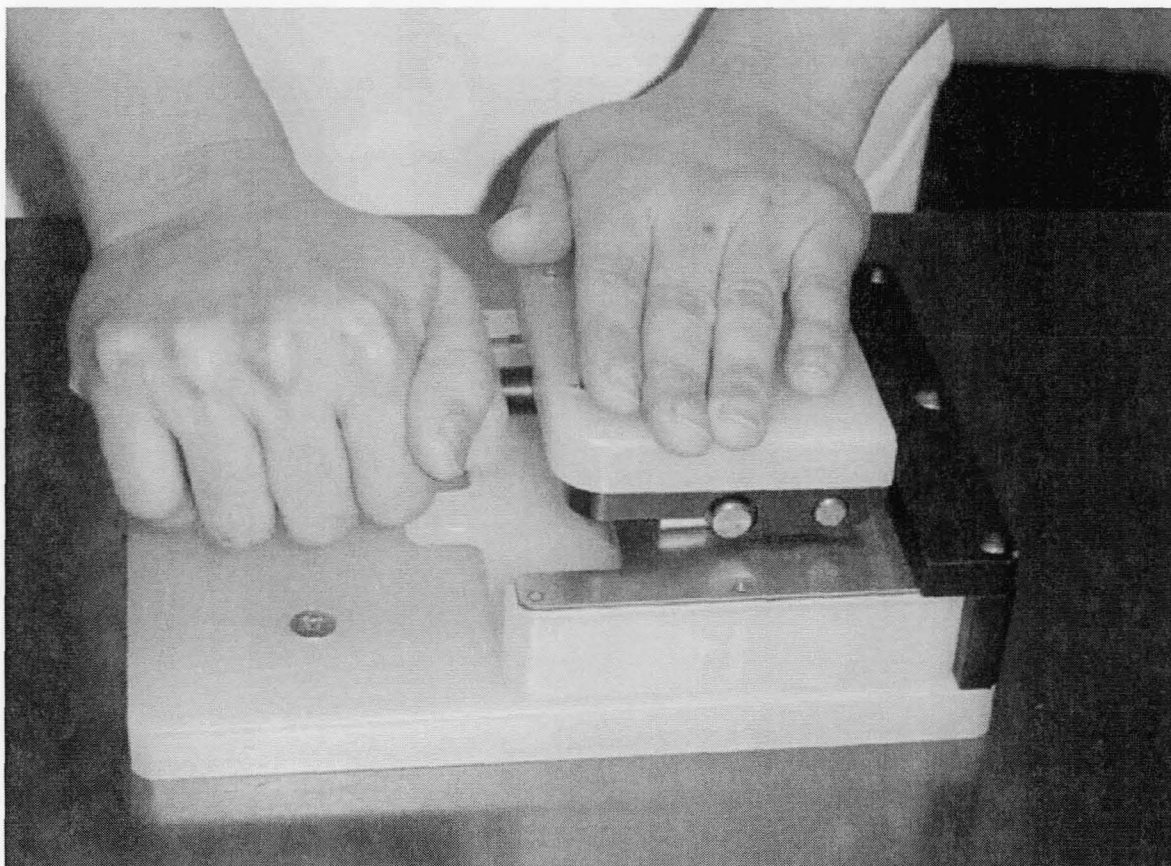


図 2

#### 6) 試用後の意見・要望

患者さんとしては、力がもっと少なくて済むようにして欲しい、面板を入れる引き出しを反対側にして欲しい、など具体的に意見や要望が出た。

#### 4、結果

患者から具体的に出了意見・要望を、再び開発プロジェクト会議に出して説明したところ、開発担当者からは「改良できると思います」との返答があり。概ね、ストーマ面板カット器は出来上がった。

## 5、課題

患者さんは試作品によって、自分のストーマにあったくりぬきが自分でできたことを喜んでい  
る。しかし、くりぬきには、強い力が必要であり、患者さんが継続して使っていくためには、さら  
なる改良が必要である。

当初、開発や材料費用の負担は、開発企業のボランティアにより、行なわれていた。試作品が出来  
た段階で、開発企業から、「市場にこの器具を販売して反応は得られるか」「製品を紹介してくれる  
代理店はあるか」と意見を求められた。ストーマにかかわっている看護師数人、販売会社2社の担  
当者、患者さん一名、それぞれに意見を聞いているが、この器具により利益が得られるかは確かめ  
られていない。今後、試作品の改良を進め、さらに使いやすい器具にし、他の患者さんにつかっ  
てもらいたいと考えている。そのためにも、資金援助を受けられる方法や学会・研究会などでのアピ  
ール方法を戦略的に進めていきたい。

## 6、まとめ

患者さんから「なにかよい器具があればいいのに」と言われた事がきっかけで、インターネット  
や関係者に相談した。最終的にはセンターという窓口があることを知り、相談し、困っている患者  
さんに器具を提供したいと熱意を伝えたところ、受け入れてもらい、実際に器具が出来上がるまで  
に至ることができた。今回、患者の自立への支援をする為には、看護師自身が社会に向けて一步を  
踏み出すことも大切であると学んだ。

## 7、参考文献

原田俊子：実践尿路ストーマケア，37-49頁，メディカ出版，2000年